

旭主宰にとって武蔵野の荒川がその望郷の川ならば、それに比するものとして、川の水が伏水している西那須野付近の蛇尾川こそが挙げられるものであろう。

84 父母の失せし村々春の雪（平成十年）

(chichihahano*useshi*muramura*harunoyuki/)

その蛇尾川を熟知している父母（ちちはは）も、その川の水が石床の下に伏水している那須野原の一角の地下に眠っている。季語からいくと春の句。

85 雪の洞無限の時を蔵しけり（平成十年）

(yukino*hora*mugenno*tokiwo*zoushikeri//)

この句は大谷のある索道での句。その索道（洞）より外の銀世界を見た時奇妙な錯覚に陥った。

86 雪の洞暗き索道隠しけり（平成十年）

(yukino*hora*kuraki*sakudou*kakushikeri//)

大谷地方では所謂石の切り出し跡に至る所で目にすることができる。それは洞窟のようでもあるし、索道のようにも見えた。

87 雪の洞生あるものを潜ませり（平成十年）

(yukino*hora*sei*arumonowo*hisomaseri/)

その大谷の通行が許されている索道に入っていると、何か昔の縄文時代に帰ったような境地になってくる。

88 十二月八日雪の洞にて過しけり（平成十年）

(junigatsu*youka*yukino*horanite*sugoshikeri//)

昭和十六年十二月八日は太平洋戦争開戦の日である。その時二歳であった。

89 十二月八日雪の海光きらめかす（平成十年）

(yunigatsu*youka*yukino*kaikou*kiramekansu/)

太平洋戦争の開戦の日は、いつも「きけわだつみのこえ」が思い起こされてくる。

90 酒汲んで父に捧げん春の雪（平成十年）

(sakekunnde*chichini*sasagen*haruno*yuki/)

六十歳の還暦を迎える年となり、三十八歳の年で、祖母・母・七人の子を残して亡くなった父のことを考えると、さぞかし無念の思いがあったことと、しみじみとその胸中を察することができた。そんな時の句である。

91 わだつみに漁火ひとつ雪のなか（平成十一年）

(wadatsumini*isaribi*hitotsu*yukinonaka/)

雪を見ていると何故か太平洋に若き命を投げ出していった幾多の英霊が思い出されてきてならない。

92 雪こんこん檜山杉山もう寝たか（平成十一年）

(yuki*konkon*hiyama*sugiyama*mou*netaka/)

母の父にあたる祖父は炭焼きなどをしていた。この祖父の思い出も多い。

93 兄者はなあ雪の蛭に化したのよ(平成十一年)

(anijawanaa*yukino*hotaruni*kashitanoyo/)

私の兄弟は兄三人、姉二人、第一人の七人の兄弟姉妹であった。その三人の兄のうち、すぐ上の兄が二十九歳の若さで病死した。これはその兄の回想句。

94 雪無音鬼城の耳を凝らしけり(平成十一年)

(yukimuon*kijouno*mimiwo*korashikeri/)

この頃持病の耳疾が悪化し、難聴の境涯詠の村上鬼城の句を反芻していた。『橘』の松本旭主宰はこの鬼城研究の第一人者でもある。

95 山寺の彼方秩父嶺春の雪(平成十二年)

[春の雪 = 三春・天文]

(yamaderano*kanata*chichibune*haruno*yuki/)

秩父路も思い出多い所の一つである。これも実際の吟行句ではなく回想の句。季語的には春の句。

96 俳の秩父嶺夜目にはだら雪(平成十二年)

(omokageno*chichibune*yomeni*hadarayuki/)

机上での作句が主となってきた。と同時に、それで良しとする作句姿勢に変わってきている。

97 雪真白時の流れを忘じたり(平成十三年)

(yuki*mashiro*tokino*nagarewo*boujitari/)

肝臓ガンを宣告されたかつての上司の話を聴きながらの感慨の句。

98 雪真白泪滂沱のまま語る(平成十三年)

(yuki*mashiro*namida*boudano*mama*kataru/)

前句と同じ時の句。これは事実を基にしたものではないが、事実以上に何かを語りかけてくる。

99 筑波道雪真白とぞ往けと言ふ(平成十三年)

(tsukubamichi*yuki*mashirototo*iketo*yuu/)

これは同じ「雪真白」の句でも、前々句や前句とは関係していない。しかし、こうして並列していると、同じ時の作句のように思えてくるのが不思議である。

100 死を意識せし人臥せし雪真白(平成十三年)

(shiwo*ishiki*seshi*hito*huseshi*yuki*mashiro/)

この句は平成十三年一月の頃の作句なのであるが、この句に接していると、この年の九月に亡くなった兄を句にしているような不思議な錯覚に陥るのである。

002 師走(shiwasu)・年惜しむ(toshioshimu)

師走 = 晩冬・時候

101 朝まだき落葉焚きゐる師走かな(平成元年以前)

年惜しむ = 仲冬・時候

(asamadaki*ochiba*takiiru*shiwasukana/)

102 思惟仏や師走の風を微笑ます(平成元年以前)

- (shiibutsuya//shiwasuno*kazewo*hohoemasu)
- 103 行人に目をやりながら年惜しむ(平成元年)
(koujinni*mewo*yarinagara*toshioshimu/)
- 104 息を吐くことももの憂し師走かな(平成七年)
(ikiwohaku*kotomo*monoushi*shiwasukana//)
- 105 何ごともなきこと祈る師走かな(平成八年)
(nanigotomo*nakikoto*inoru*shiwasukana//)
- 003 クリスマス(kurisumasu)・古暦(hurugoyomi) クリスマス=仲冬・行事
106 古暦かささぎの目は二十丸(平成元年以前) 古暦=仲冬・生活
(hurugoyomi*kasasagino*mewa*nijumaru/)
- 107 クリスマス・キャロルよクルス鮮やかに(平成二年)
(kurisumasu*kyaroru*yo*kurusu*azayakani/)
- 004 除夜の鐘(joyanokane) 除夜の鐘=仲冬・行事
108 静かなる雨音まじり除夜の鐘(平成三年)
(shizukanaru*amaoto*majiri*joyanokane/)
- 005 去年今年(kozokotoshi) 去年今年=新年・時候
109 去年今年ふるさとの川豊かなり(平成元年以前)
(kozokotoshi*hurusatono*kawa*yutakanari/)
- 110 去年今年だんだん耳の遠くなる(平成三年)
(kozokotoshi*dandan*mimino*toukunaru/)
- 111 憂きことを憂きことのまま去年今年(平成七年)
(ukikotowo*ukikotono*mama*kozokotoshi/)
- 112 今生きることを知りたる去年今年(平成七年)
(imaikiru*kotowo*shiritaru*kozokotoshi/)
- 113 松のこと松は語らず去年今年(平成十年)
(matsuno*koto*matsuwa*katarazu*kozokotoshi/)
- 006 元朝(ganchyou)・松の内(matsunouchi) 元朝=新年・時候
114 松の内裏の川見て過ごしけり(平成三年) 松の内=新年・時候
(matsunouchi*urano*kawa*mite*sugoshikeri//)
- 115 猫もゐて一人こたつの正月夜(平成三年)
(nekomo*ite*hitori*kotatsuno*shougatsuya/)
- 116 はるかなる富士元朝や爽やかに(平成十年)

(harukanaru*huji*ganchouya//sawayakani)
117 元朝や釣糸垂れて姿川(平成十年)
(ganchouya//tsuriito*tarete*sugatagawa)

007 破魔矢(hamaya)

破魔矢 = 新年・生活

118 破魔矢下げ護国の杜を突き抜ける(平成十年)
(hamaya*sage*gokokuno*moriwo*tsukinukeru/)
119 還暦や破魔矢の鈴を鳴らしけり(平成十一年)
(kanrekiya//hamayano*suzuwo*narashikeri/)

008 若水(wakamizu)

若水 = 新年・行事

120 還暦の年の若水ざんざ汲む(平成十一年)
(kanrekino*toshino*wakamizu*zanza*kumu/)

009 年酒(nenshu)

年酒 = 新年・生活

121 烏山八景句碑で年酒汲む(平成六年)
(karasuyama*hakkeikuhide*nenshu*kumu/)
122 もう何もすなと独り年酒汲む(平成十年)
(mou*nanimo*suna*to*hitori*nenshu*kumu/)
123 年酒断つ形見のセータ着て眠る(平成十四年)
(nenshu*tatsu*katamino*se-ta*kite*nemuru/)

010 初景色(hatsukeshiki)

初景色 = 新年・地理

124 ならかな筑波が見えて初景色(平成六年)
(nadarakana*tsukubaga*miete*hatsukeshiki/)

011 初御空(hatsumisora)

初御空 = 新年・天文

125 初御空翼ひろげて飛びたしと(平成三年)
(hatsumisora*tsubasa*hirogete*tobitashito/)
126 鵜たち翼ひろげて初御空(平成三年)
(tsugumitachi*tsubasa*hirogete*hatsumisora/)

012 初東風(hatsukochi)

初東風 = 新年・天文

127 山の上初東風なびく白い雲(平成十年)
(yamanoue*hatsukochi*nabiku*shiroikumo/)

0 1 3 初詣(hatsumoude)

初詣 = 新年・行事

- 1 2 8 黒々と人また人の初詣(平成七年)
(kuroguroto*hito*mata*hitono*hatsumoude/)
- 1 2 9 願ひごと何も浮かばず初詣(平成七年)
(negaigoto*nanimo*ukabazu*hatsumoude/)

0 1 4 初茜(hatsuakane)

初茜 = 新年・天文

- 1 3 0 幾重にも山は重なり初茜(平成十三年)
(ikuenimo*yamawa*kasanari*hatsuakane/)
- 1 3 1 霜の田を海に見立てて初茜(平成十三年)
(shimonotawo*umini*mitatete*hatsuakane/)
- 1 3 2 初茜闇の深さを知りにけり(平成十三年)
(hatsuakane*yamino*hukasawo*shirinikeri//)
- 1 3 3 初茜闇の中より鴉湧く(平成十三年)
(hatsuakane*yamino*nakayori*karasu*waku/)
- 1 3 4 一望の関八州の初茜(平成十三年)
(ichibouno*sekihasshusyuno*hatsuakane/)

0 1 5 初声(hatsukoe)

初声 = 新年・動物

- 1 3 5 初声やなかにぼつかり筑波山(平成六年)
(hatsukoeya//nakani*pokkari*tsukubayama)
- 1 3 6 初声や俳諧自在のと巴人句碑(平成六年)
(hatsukoeya//haikai*jizaino*hajinkuhi)

0 1 6 初雀(hatsusuzume)

初雀 = 新年・動物

- 1 3 7 異国より帰れる吾に初雀(平成三年)
(ikokuyori*kaereru*wareni*hatsusuzume/)
- 1 3 8 初雀巴人の句碑で遊びをり(平成六年)
(hatsusuzume*hajinno*kuhide*sobiori/)
- 1 3 9 吾もまたひとりになりぬ初すずめ(平成七年)
(waremo*mata*hitorini*narinu*hatsusuzume/)

0 1 7 初鴉(hatsugarasu)

初鴉 = 新年・動物

- 1 4 0 初鴉吾の真似して歩みをり(平成十年)

(hatsugarasu*wareno*maneshite*ayumiori/)

0 1 8 初日記(hatsunikki)

初日記 = 新年・生活

1 4 1 初日記末尾に友の死を記す(平成元年以前)

(hatsunikki*matsubini*tomono*shiwo*shirusu/)

0 1 9 読初(yomizome・yomihajime)

読初 = 新年・生活

1 4 2 松のこと松に習はむ読初(平成十年)

(matsuno*koto*matsuni*narawan*yomihajime/)

0 2 0 淑気(shyukki・shyukuki)

淑気 = 新年・天文

1 4 3 淑気満つ江戸風流の八景碑(平成六年)

(shyukki*mitsu*edohuuryuuno*hakkeihi/)

1 4 4 多気山の一木一草淑気満つ(平成十年)

(tagesanno*ichiboku*issou*syukki*mitsu/)

1 4 5 師の書また発墨生痕の淑気かな(平成十年)

(shino*sho*mata*hatsubokuseikonno*syukki*kana//)

0 2 1 御降り(osagari)

御降り = 新年・天文

1 4 6 おさがりのこがしのやまのふかきいろ(平成四年)

(osagarino*kogashino*yamano*hukakiiro/)

0 2 2 左義長(sagichou)・どんど焼き(dontoyaki)

左義長 = どんど焼き = 新年・行事

1 4 7 還暦の吾を焼くごとどんどの火(平成八年)

(kanrekino*warewo*yakugoto*dondono*hi/)

0 2 3 鳥総松(tobusamatsu)

鳥総松 = 新年・生活

1 4 8 亡き母に教はりしまま鳥総松(平成九年)

(nakihahani*osowarishi*mama*tobusamatsu/)

1 4 9 根付くかと根付かぬかなと鳥総松(平成九年)

(nezukukato*nezukanukanato*tobusamatsu/)

0 2 4 松納(matsuosame)

松納 = 新年・生活

1 5 0 見舞ひより帰りしままに松納(平成九年)

(mimaiyori*kaerishi*mamani*matsuosame/)

0 2 5 若菜摘(wakanatsumi)

若菜摘 = 新年・生活

1 5 1 危篤なる母に捧げん若菜摘む(平成九年)

(kitokunaru*hahani*sasagen*wakanatsumu/)

1 5 2 男体の雪を拝みて若菜摘む(平成九年)

(nantaino*yukiwo*ogamite*wakanatsumu/)

0 2 6 七日粥(nanokagayu)

七日粥 = 新年・行事

1 5 3 平成を口ごもりつつ七日粥(平成元年以前)

(heiseiwo*kuchigomoritsutsu*nanokagayu/)

1 5 4 七日粥供えて遺影しまひけり(平成七年)

(nanokagayu*sonaete*iei*shimaikeri//)

0 2 7 成人の日(seijinnohi)

成人の日 = 新年・行事

1 5 5 成人の日に寒木瓜の咲きにけり(平成元年以前)

(seijinno*hini*kanbokeno*sakinikeri/)

0 2 8 近松忌(chikamatsuki)

近松忌 = 仲冬・行事

1 5 6 閉じし眼の夢美しや近松忌(平成元年以前)

(tojishimeno*yume*utsukushiya//chikamatsuki)

0 2 9 波郷忌(hakyouki)

波郷忌(惜命忌・風鶴忌) = 初冬・行事

1 5 7 惜命忌波郷のこころ知りにけり(平成十四年)

(shakumyouki*hakyouno*kokoro*shirinikeri//)

1 5 8 波郷忌や波郷好きの句詠みすむ(平成十四年)

(hakyoukiya//hakyouzukinoku*yomisusumu)

1 5 9 波郷忌や風ざわざわと山毛櫨峠(平成十四年)

(hakyoukiya//kaze*zawazawato*bunatouge)

1 6 0 足を截る子のこと想う波郷の忌(平成十四年)

(ashiwokiru*konokoto*omou*hakyounoki/)

1 6 1 冬凧ぎて風切鶴の眼風鶴忌(平成十四年)

(huyunagite*kazakiri*tsurunome*huukakuki/)

0 3 0 芭蕉忌・桃青忌(basyouki・touseiki)

芭蕉忌(桃青忌) = 初冬・行事

162 コンピュータ用語に夢中桃青忌(平成六年)

(konpyuuta*yougoni*muchu*touseiki/)

031 蕪村忌(busonki)

蕪村忌=晩冬・行事

163 蕪村忌や発墨生痕の印激し(平成五年)

(busonkiya//hatsubokuseikonno*in*hageshi)

032・033 冬(huyu)

冬 = 三冬・時候

164 冬に入る噴水に影日向あり(平成元年以前)

(huyuniiru*hunsuini*kage*hinata*ari/)

165 冬天に向き若者の笛を吹く(平成元年以前)

冬天 = 三冬・天文

(toutenni*muki*wakamonono*fuewo*fuku/)

166 故郷や川面に強き寒の雨(平成元年以前)

寒の雨 = 晩冬・天文

(furusatoya//kawamoni*tsuyoki*kannoame)

167 ふるさとの空澄みわたる冬木立(平成元年以前)

冬木立 = 三冬・植物

(furusatono*sora*sumiwataru*huyukodachi/)

168 みほとけの指の透きたる冬紅葉(平成元年以前)

冬紅葉 = 初冬・植物

(mihotokeno*yubino*sukitaru*huyumomiji/)

169 冬苺ばつとり幼児の赤き頬(平成元年以前)

冬苺 = 三冬・植物

(huyuichigo*pattsuri*youjino*akaki*hoho/)

170 病む母の目の優しさや冬苺(平成元年以前)

(yamuhahano*menoyasashisaya//huyuichigo)

171 寒の雨河童の国に降りにけり(平成元年以前)

(kannoame*kappano*kunini*hurinikeri//)

172 出雲社の雅楽の響き冬の虹(平成元年以前)

冬の虹 = 三冬・天文

(izumoshano*gagakuno*hibiki*huyunoniji)

173 穀象の如き冬日の道普請(平成元年以前)

冬日 = 三冬・時候

(kokuzouno*gotoki*huyuhino*michibushin)

174 冬の旅夜の鏡に亡父がある(平成元年以前)

(huyunotabi*yoruno*kagamini*chichiga*iru/)

175 揚子江銘のかすれの冬硯(平成元年以前)

(yousukou*meino*kasureno*huyusuzuri/)

176 ふゆやまのからまつばやしおともせず(平成元年以前)

冬の山 = 三冬・地理

(huyuyamano*karamatsu*bayashi*otomo*sezu/)

- 177 見上げれば冬の鳥の北へ飛ぶ(平成元年以前) 冬の鳥 = 三冬・動物
(miagereba*huyunotorino*kitae*tobu/)
- 178 巴人の句那珂の冬瀬にこだませり(平成二年)
(hajinno*ku*nakano*huyuseni*kodamaseri/)
- 179 萎へてゐし心引き立て冬岬(平成三年)
(naeteishi*kokoro*hikitate*huyumisaki/)
- 180 冬雨や銀杏林に憩ひけり(平成三年) 冬の雨 = 三冬・天文
(huyusameya//ichou*hayashini*ikoi*keri/)
- 181 冬うらら青のピカソの中に座す(平成四年) 冬麗 = 三冬・天文
(huyu*urara*aono*pikasono*nakani*zasu/)
- 182 冬麗の掌の上にある祖母の瑠璃(平成四年)
(toureino*teno*ueni*aru*sobono*ruri/)
- 183 冬日向虚実一如を知りにけり(平成四年) 冬日向 = 三冬・時候
(huyuhinata*kyojitsuichinyo*wo*shirinikeri//)
- 184 ふるさとをここに定めて冬男体(平成五年)
(hurusatowo*kokoni*sadamete*huyu*nantai/)
- 185 蕭条と冬日傾く古城かな(平成五年)
(shoujyouto*huyuhi*katamuku*kojou*kana//)
- 186 冴えざえと屍埋めて冬古城(平成五年)
(saezaeto*shikabane*umete*huyu*kojou)
- 187 さまざまなこと走馬灯冬古城(平成五年)
(samazamana*koto*soumatou*huyu*kojou/)
- 188 いままさに「おくのほそみち」ふゆけしき(平成五年) 冬景色 = 三冬・地理
(ima*masani*okuno*hosomichi*huyu*keshiki/)
- 189 冬の旅行柳を始めとす(平成五年)
(huyuno*tabi*yugyou*yanagiwo*hajimetosu/)
- 190 ふりむけば那須の山々冬の旅(平成五年)
(hurimukeba*nasuno*yamayama*huyuno*tabi/)
- 191 ただ哭きしただ祈らんと冬ごもり(平成六年) 冬籠り = 三冬・生活
(tada*nakishi*tada*inoranto*huyu*gomori/)
- 192 幾筋か川路あり冬筑波(平成六年)
(ikusujika*kawano*michi*ari*huyu*tsukuba/)
- 193 行きゆけば冬の筑波の見ゆるまで(平成六年)
(yukiyukeba*huyuno*tsukubano*miyuru*made/)
- 194 冬筑波のみぼつかりと平坦地(平成六年)
(huyu*tukuba*nomi*pokkarito*heitanchi/)

- 195 ならかな道を歩みて冬筑波(平成六年)
(nadarakana*michiwo*ayumite*huyu*tsukuba/)
- 196 別れきしおくのほそ道冬めきぬ(平成六年)
(wakare*kishi*okuno*hosomichi*huyu*mekinu/)
- 197 冬筑波何故か来し方見えてくる(平成六年)
(huyu*tsukuba*nazeka*koshikata*miete*kuru/)
- 198 行く末を暗示するかに冬筑波(平成六年)
(yukusue*wo*anji*surukani*huyu*tsukuba/)
- 199 やがて死ぬ地下の骨壺冬日射る(平成七年)
(yagate*shinu*chikano*kotsutsubo*huyuhi*iru/)
- 200 四十九日母亡き里や冬に入る(平成八年)
(shijukunichi*haha*naki*satoya//huyuni*iru/)
- 201 那須山の木霊は冬日の中に在る(平成八年)
(nasuyamano*kodamawa*fuyuhino*nakani*aru/)
- 202 鬱の子がぼんやりと居て冬日向(平成八年)
(utsuno*koga*bon'yarito*ite*huyu*hinata/)
- 203 冬雨は母なるものの泪かな(平成九年)
(huyusamewa*haha*naru*monono*namida*kana//)
- 204 しみじみと亡き父想ふ冬山河(平成九年)
(shimijimito*naki*chichi*omou*huyu*sanga/)
- 205 冬ざれや父の享年三十九(平成九年) 冬ざれ = 三冬・時候
(huyuzareya//chichino*kyounen*sanjuuku)
- 206 冬の墓碑昭和十八年の字の掠る(平成九年)
(huyuno*bohi*shouwa*juuhachinenno*jino*kasuru/)
- 207 冬の海捨鵜の影も何もなし(平成九年) 冬の海 = 三冬・地理
(huyuno*umi*steuno*kagemo*nanimo*nashi/)
- 208 思ふべし捨鵜の飛翔冬の空(平成九年) 冬の空 = 三冬・天文
(omoubeshi*steuno*hishou*huyuno*sora/)
- 209 群れ捨鵜思ふべきかな冬天心(平成九年)
(mure*suteu*omou*bekikana//huyu*tenshin)
- 210 冬の月捨鵜が翔つを見てゐたり(平成九年) 冬の月 = 三冬・天文
(huyuno*tsuki*steuga*tatsuwo*mite*itari/)
- 211 冬の旅捨鵜の如き吾が身かな(平成九年)
(huyuno*tabi*steuno*gotoki*waga*mi*kana//)
- 212 こがしよりつくばへながるふゆのくも(平成十年) 冬の雲 = 三冬・天文
(kogashi*yori*tukubae*nagaru*huyuno*kumo/)